

箱根の自然と歴史を融合したジオパークをめざして～博物館が果たすべき役割を考える～

Educational program of Hakone Geopark project aims to the fusion of nature and history; Museum should play role.

平田 大二^{1*}, 笠間 友博¹, 山下 浩之¹, 齋藤 靖二¹

HIRATA, Daiji^{1*}, KASAMA Tomohiro¹, YAMASHITA Hiroyuki¹, SAITO Yasuji¹

¹ 神奈川県立生命の星・地球博物館

¹ Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

箱根火山及びその周辺は、豊かな自然を背景とし、貴重な歴史・文化を形成してきた地域である。首都圏に近いこともあり、毎年国内外から3,000万人以上の観光客が訪れる日本有数の国際的な観光地となっている。小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町と神奈川県では、この地域の地質資源をはじめ、歴史的、文化的、生態学的資源を維持保全し、その価値を高めていくためにジオパーク認定に向けた活動を進めている。

箱根のジオパークとしての特徴は、つぎのものがあげられる。箱根火山は、プレート境界域かつ伊豆・小笠原弧と本州弧の衝突域に位置するユニークな火山である。箱根や湯河原の温泉は、豊富な湯量と多様な泉質を誇り、歴史的にも由緒ある温泉地である。相模湾の海岸線から箱根火山の最高峰の神山まで、1,400mの高低差がある起伏に富む地形となっており、固有な動植物も生息する。旧石器時代や縄文・弥生時代等の古代の人々の営みからはじまり、中世の源平合戦や曾我物語の舞台、戦国時代の北条氏による統治と豊臣秀吉の小田原攻め、江戸時代の城下町や東海道の宿場や関所、明治以降の保養地としてなど、長い歴史が残されてきた地域である。箱根火山の溶岩が良質な石材として小田原城や江戸城の石垣にも使われ、同時に高い石工技術を持つ石工も育んだ。

このような特徴を背景として、箱根ジオパーク構想では、郷土の自然と歴史・文化に愛着と誇りもつことができる教育活動、保全に配慮した自然・歴史・文化を含めた地域の再発見を促す観光活動、そして地域の資源を再発掘・活用する地域振興活動を展開している。これらの活動の中で、地域内にある神奈川県立生命の星・地球博物館をはじめ、小田原城天守閣・歴史見聞館、小田原市郷土文化館、箱根湿生花園、箱根関所資料館、箱根町郷土資料館、湯河原町立美術館、真鶴町立遠藤貝類博物館、真鶴町立民俗資料館など博物館施設には、ジオパーク活動の拠点施設としての期待が大きい。

しかし、「拠点施設としての期待」について、よく考える必要がある。確かに、箱根という観光地にあり、観光客誘致の一つの目玉になりうるであろう。また、地域振興のためのアイデアを出せる職員もいるであろう。しかし、博物館施設が果たすべき役割の最大のものは、やはり教育であると考え。地域の人たちが地域の自然と歴史・文化をよく知ることがジオパークの活動の原点になるはずである。観光客への教育ももちろんであるが、地域の人たちへの教育活動をどのように展開していくか、そのことを考えていきたい。箱根地域の自然と歴史を融合した教育活動が進めていきたい。そのためには、箱根地域の博物館施設の職員が共通認識を持って協働することが不可欠である。本発表では、そのような活動の事例を紹介する。

キーワード: 箱根ジオパーク構想, 博物館, 自然と歴史の融合, ジオパーク拠点施設

Keywords: Hakone Geopark project, Educational program, museum facility